

広島広域都市圏地域貢献人材育成事業

2021 年度 事業実施報告について

大学等名	広島修道大学	
教育研究活動	区分	⑦ 地域におけるにぎわいの創出
	テーマ	若者世代に贈る広島広域都市圏での「仕事暮らし」方
連携した市町	広島市（企画総務局企画調整部広域都市圏推進課）	
連携した企業、団体等	NPO 法人ひろしまジン大学	
指導教員	広島修道大学人文学部 教育学科 教授 山川 肖美 同 准教授 谷口 直隆	
参加学生	【人文学部教育学科】4年…6人 3年…2人 2年…1人 【人文学部人間関係学科社会学専攻】3年…1人	
事業の目的	<p>本事業の目的は、「コラボゼミ」*1 と「オープンゼミ」*2 の枠組みを活用して、大学生とひろしまジン大学の協働により、「仕事暮らし」をキーワードに多世代が学びと交流の場へ参画することを通じて、広島広域都市圏における若者世代の定着や関係人口の拡張を促すことを目的とする。「仕事暮らし」とは、「広島広域都市圏に暮らす人の各自にユニークな働き方と暮らし方の総和」のことである。若者世代は16歳～24歳前後を想定している。</p> <p>2020年度の広島広域都市圏発展ビジョンのPDCAサイクル検証結果では、「大学卒業生の圏域内就職率」が目標値53.7%（2019年度）に対して実績値41.8%（2019年度）であること、連動して転出超過が深刻であることが示されており、これが広島広域都市圏の課題の1つと認識されている。</p> <p>本課題に対しては様々なアプローチが想定されうるが、本事業はその一角に位置づくものとして、第1に若年層を核とした学びを通じた人と人の対話による社会関係資本（信頼と共感によるオープンなつながり）の形成、第2に「広島広域都市圏」市町民（同圏域居住者・勤務者・通学者に加えて、同圏域と関係人口になることを望む層を含む）が自らの生き方を構想あるいは再定義できることを目指し、学びの機会（コラボゼミ・オープンゼミ）の創出とその社会的意義を検証する。</p> <p>*1 コラボゼミ ひろしまジン大学平尾順平氏と山川を発起人として2020年6月より定期的で開催している学生と社会人との学びと交流を目的としたオンラインゼミの通称</p> <p>*2 オープンゼミ 広く参加者を募って実施する学生と社会人との学びと交流を目的としたイベントで、コラボゼミメンバーが企画・運営</p>	
事業概要と実施状況	<p>事業は主に次の7つの層で取り組んだ。</p> <p>① 定期的にオンラインでのコラボゼミの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要：企画会議やテーマに沿って社会人と学生で意見交換 ・開催回数：本プロジェクト採択時から2022年2月末までに10回以上開催 ・参加人数：各回とも10名前後が参加 <p>② 定期的にリアルでの企画会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要：コラボゼミへ諮る原案づくり、コラボゼミ後のブラッシュアップや各イベントの準備等をする場として主に学生が主体的に開催 	



コラボゼミ前の学生の打ち合わせの様子

③中間報告会「私たちの生活のONとOFF」

日時：2021年10月21日 16時30分～18時

会場：広島修道大学ひろみらスタジオ（広島修道大学協創館地下1階）

目的：ここまでの活動を共有するとともに、社会人へのインタビューを実施するにあたってプロジェクト参加学生だけでなくより多くの大学生が、「仕事と暮らし」について本当に訊きたい質問項目を把握・分析するため

参加者：29名の大学生と社会人

概要：中間報告会では、プロジェクト参加学生のほか、プロジェクトに参加していない学生やひろしまジン大学の平尾順平氏、キムラミチタ氏、広島市職員の方、本学教職員等が29名参加し、これまでの取り組みの報告及び「将来どんな生き方がしたいですか？」という問いに対する大学生によるラベルワークと対話がじっくりと展開され、最後に、その様子を見ていた社会人代表よりコメントがあった。大学生・社会人双方にとって、「仕事暮らし」についての互いの価値観の違いを発見する豊かな時間となった。

所期の目標であった「大学生が本当に訊きたいキャリア（仕事暮らし）の話」についても概ね把握することができた。



④ 中間報告会後の方向性の話し合い

報告会終了後、中間報告会における付箋を分析し、中間報告会を通じて大学生自らが提起した「将来こんな生き方がしたい」、そのために「仕事暮らしについてこんなことを訊きたい」ことのポイントをもとに、プロジェクト参加学生がリサーチ（インタビュー）をする社会人とインタビュー項目を選出・選定するための話し合いを行った。



中間報告会後の話し合いの様子

⑤ インタビュー取材の実施

期間：10月下旬から1月末まで

概要：中間報告会を通じて把握・分析した、大学生がこれからの「仕事と暮らし」について本当に訊きたい4カテゴリー「お金」「住居」「願望」「仕事」「結婚・家庭」のそれぞれについて、広島広域都市圏に住む・働く・学ぶ・つながる人の中から各自（プロジェクト参加学生）で訊きたい人を選定し、先方とアポイントを取り、インタビューを実施した。感染リスクを抑えるために可能な限りオンラインを活用した。中間報告会を通じて得た5つのキーワードごとに、社会人6名にインタビュー取材を実施した。



ZOOMでのインタビュー風景

⑥ 成果報告会を兼ねたトークセッション「デアウ、ハナス、ヒロガル、ミライ」の開催

日時：2022年2月13日

会場：ZOOM（当初、おりづるタワー10階にあるエソール広島研修室を予定していたが、まん延防止期間となり急遽オンラインへ切り替えた）

概要：「デアウ、ハナス、ヒロガル、ミライ」と題して、成果報告会を兼ねたトークセッションと参加者全員参加型のワークショップをオンラインで開催し、43名の大学生や社会人が参加して活発な学び合い・交流を行った。報告会のコーディネーター役を務めたのは、プロジェクト参加学生10名である。



報告会の第1部はその6名のインタビューを代表して、清水浩司さん（作家・ライター

ー・編集者) にゲストスピーカーとして登壇いただいた。第2部は、トークセッションとグループワークを行い、第1の転機、第2の転機、第3の転機にまつわるそれぞれの人生を語り合い、自分に向き合うことができる時間となった。10人の学生メンバーがそれぞれコーディネートを行ったワークショップでは、立場や世代を超えて話しあう、貴重な時間となった。

⑦ 広島広域都市圏における若者世代に贈る仕事暮らしシジンのための小冊子(仕事暮らし方手帖)「Green」を作成

活動報告書を兼ねて、広島広域都市圏における若者世代に贈る仕事暮らしシジン(仕事暮らし方手帖)「Green」を作成した。



7 活動効果

①定期的にオンラインによる学びと交流の場を開催することで、広島広域都市圏に住むまたは学ぶ・働く若者世代の学びと交流のプラットフォームの試行(プロトタイプ)ができた。

②中間報告会の結果として、近い将来の「仕事と暮らし」について大学生が社会人に本当に訊きたい項目として、「お金」「住居」「願望」「仕事」「結婚・家庭」の5項目があることが析出された。

③大学生自身がインタビュアーとして自分が訊きたいインタビュイーへの調査計画を立案・実施することでリサーチのスキルが身につくと同時に、広島広域都市圏に住む・働く・繋がる社会人と大学生との関係構築ができた。

④ 広島広域都市圏において、あるいは関係人口として、若者世代にある一人ひとりが、どのような人たちと出会い、仕事に就き、暮らしていくことができるのか、より具体的かつより豊かなイメージをもって近い将来の選択をできる一助となった。社会人においては、これまでとこれからの「仕事と暮らし」を振り返って再定義をするきっかけとなった。

コラボゼミがそして自分たち自身が資源になって、広島広域都市圏でどんな生き方ができるのかを若者世代や社会人とともに考えることで、その過程と結果において広島広域都市圏のファンが増え関係人口の創出に繋がった。

⑤本プロジェクトのプロセスと成果を冊子とすることで、学びと交流の場を通じて広島広域都市圏において大学生等と社会人が協働で自分たちの仕事と暮らしの質を高めていくための手法と成果を、プロジェクトメンバーや今回のイベント参加者とどまらず、広く社会に発信することができた。